

第3章 本プランが目指す「すみだ」の将来像

第3章 本プランが目指す「すみだ」の将来像

3-1 本プランが目指す「すみだ」の将来像

本プランは、「第二次すみだ環境の共創プラン」を中間改定したものではありませんが、「すみだゼロカーボンシティ 2050 宣言」を踏まえ、「低炭素」から「脱炭素」へと大きく目標を上げる中で、CO₂削減の強化を図るものとなります。

「第二次すみだ環境の共創プラン」では、「すみだ」の将来像を「みんなで創る環境にやさしいまち『すみだ』」としていました。

後期計画ではこの将来像を引き継ぎながらも、SDGs を踏まえ、環境を中心とした様々な課題の解決を通じ、より良いまちづくりと世界規模での持続可能な社会の構築に貢献するため、「みんなで創る環境にやさしい持続可能な『すみだ』」とします。

みんなで創る環境にやさしい持続可能な「すみだ」

私たちの暮らす墨田区は、悠久の流れをたたえた隅田川と先人の力によって生まれた荒川の二つの河川に抱かれた豊かな水辺の地にあります。この地の自然をはじめとして、江戸下町文化を育ててきた環境を守り、より豊かにして未来の子どもたちへ引き継ぐことは、墨田区に住み、働き、学び、集う私たちの願いであり、今を生きる私たちの責務です。

また、墨田区のような都市部では、持続可能な消費と生産を通じて、世界規模での持続可能な社会の構築に貢献する責務も負っています。

本プランが目指す「すみだ」の将来像の実現には、行政の力だけではなく、より一層の区民・事業者等との協働と連携が必要です。

区民・事業者等との協働と連携によって、よりよい環境を守り育てていく、という「責務」をあらためて認識することが「環境の共創」の土台となります。その上で、「すみだの将来像」を共有することによってはじめて、環境にやさしい持続可能な「すみだ」の実現に近づくことができます。

さらに、コロナ禍の影響により、環境に係る啓発事業など施策の実施に当たっては、新しい生活様式に合った方法を選択していくこととしていきます。



3-2 2025（令和7）年頃のすみだのイメージと基本目標

墨田区は、隅田川や荒川をはじめ豊かな水辺に恵まれ、かつては江戸のまちの中で最も栄えた文化や歴史が薫るまちとしての魅力を持っています。さらに2012（平成24）年5月には東京スカイツリー[®]が完成し、観光都市としての魅力も高まっています。

このようなすみだの魅力とすみだが抱える環境への課題を踏まえて、本プランが目指す2025（令和7）年頃のすみだのイメージを描きました。

これらの6つのイメージは、今後の環境行政の取組成果の目標となるものです。そのため、このイメージを本プランが目指す「すみだ」の将来像を実現するための基本目標として位置付け、区民・事業者・区の協働による取組の指針とします。

【本プランが目指す「すみだ」の将来像に基づく2025（令和7）年頃のすみだのイメージ】

基本目標1 脱炭素社会の実現に向けたまちづくりが進み、あらゆる人が行動するまち

省エネルギー型の設備や家電の普及とともに、太陽光発電設備をはじめとする創エネルギー設備や蓄エネルギー設備の導入が進んでいます。また、無駄なエネルギーを消費しない構造の住宅やビルが増え、エネルギーマネジメントの取組が普及しています。さらに、水素エネルギーの活用も進み、家庭や事業所において燃料電池、燃料電池自動車が普及しつつあります。

まちには、歩きやすい歩道や自転車道が整備され、公共交通機関と組み合わせて快適かつ環境に配慮した移動がしやすくなっています。自家用車やバスは、電気自動車などに切り替わりつつあり、CO₂とともに大気汚染物質の排出量も削減されています。

家庭や事業所では、省エネルギー行動が「日常的な習慣」として定着しており、省資源・省エネルギー型のライフスタイル、ビジネススタイルが定着しています。

基本目標2 気候変動に適応し、安心して過ごせるまち

国や東京都と連携し、豪雨や高潮による水害に強いまちづくりが進み、家庭や事業所では災害時に迅速に避難行動を取ることができる体制が整っています。

また、住宅やビルからの排熱抑制や多様な地域の緑化の取組により、ヒートアイランド現象が緩和され、クールスポットが公共施設のほかにも、事業者の協力により区内の各所に設置され、健康で快適に夏を過ごせるまちになっています。

家庭や事業所では、気候変動に対する正しい知識が身につけており、様々な影響に対し、自助・共助・公助による適応が進んでいます。

基本目標3 水と緑が暮らしに寄り添うまち

公園や街路樹の緑化、水辺など公共の場の緑化に加え、住宅やビルの壁面緑化、屋上緑化、緑のカーテンなどの多様な地域の緑化が着実に進むとともに、エコロジカルネットワークが形成されています。併せて、緑を用いた生きがいつくり、交流、生き物観察講座などが活発になることで、区民の緑の満足度が高まっています。

また、大横川や北十間川をはじめとして親水空間の整備が進み、隅田川の観光船からは緑と水辺の風景を楽しめるようになっています。

家庭や事業所では、生物多様性に対する正しい知識が身につけており、生物多様性に配慮した方法で生産されたものを選択して購入するなどのライフスタイル、ビジネススタイルが定着しています。

基本目標 4 省資源・循環型社会を実現するまち

街なかに並ぶ商品の大部分は、容器包装が最小限又はパッケージフリーになり、リユース容器も普通になっています。

家庭や事業所では、できる限りごみを出さない、ものを捨てずに大切に使うライフスタイルやビジネススタイルが定着し、焼却処理や最終処分されるごみの量が減っています。

基本目標 5 良好な生活環境が確保され、健康でやすらぎが実感できる住みよいまち

大気や河川、騒音、振動などに対する調査・監視・指導の継続により、環境基準を達成し、都市・生活型公害への苦情が減っています。

また、ごみ排出ルールが守られ、カラスやネズミなどの鳥獣被害が減るとともに、ごみの不法投棄、ごみ屋敷もなくなり、これらへの苦情も減っています。

さらに、まちは下町情緒あふれる、すみだらしい風景に満たされています。

基本目標 6 環境活動を実践する人が育つまち

人情や風情にあふれたすみだを愛し、家庭や学校、職場など様々な場面で、環境問題について正しい知識を学び、その解決に向けて積極的に行動できる区民や事業者になっています。

江戸の昔から連綿と続く生活の場、働く場としてのすみだを、より豊かにして未来の子どもたちへ引き継ぐため、「環境の共創」の考え方のもと区民・事業者・区が協働してさまざまな環境保全活動に取り組む環境にやさしいまちになっています。

【本プランが目指す「すみだ」の将来像に基づく6つの基本目標】

